～令和４年度～

名城大学ボランティア協議会

活動報告書

目次

章のタイトル（レベル 1）を入力してください **1**

章のタイトル（レベル 2）を入力してください 2

章のタイトル（レベル 3）を入力してください 3

章のタイトル（レベル 1）を入力してください **4**

章のタイトル（レベル 2）を入力してください 5

章のタイトル（レベル 3）を入力してください 6

名城大学ボランティア協議会

名城大学ボランティア協議会ロゴマーク
色と形の違いは、ボランティア協議会に入会している人たちを表現。性別、年齢、性格など違った人たちが、互いを尊重しあいながら、同じ目的のために団結し、１つの目標をみんなで達成することを意味しています。

概要

設立　平成 16 年 7 月 14 日

本会（名城大学学務センター）

T468-8502

名古屋市天白区塩釜口一丁目 501 番地

TEL 052-832-1151（代）

会員数 237 人

役員数数　実務担当・事務担当 副会長……各 1 人

環境ボランティア……代表 1 人、副代表 1 人、スタッフ 6 人

地域安全ボランティア……代表 1 人、副代表 1 人

災害復興ボランティア……代表 1 人、スタッフ 10 人

福祉ボランティア……代表 1 人、副代表 1 人、スタッフ 5 人

こどもボランティア……代表 1 人、副代表 1 人、スタッフ 1 人

総務部……部長 1 人、スタッフ 1 人

広報部……部長 1 人、スタッフ 1 人

財務部……部長 1 人、スタッフ 1 人

沿革

平成 16 年 7 月　名城大学ボランティア協議会設立

「クリーンアップ大作戦」・「地域安全パトロール」発足

平成 16 年 10 月「災害復興ボランティア」発足

平成 18 年 9 月　事務部門を設置

平成 18 年 10 月「天白学生地域防犯パトロール隊」結成

平成 19 年 4 月　「クリーンアップ大作戦」から「環境ボランティア」と改称

「盲導犬ボランティア」発足

V ポイント制度導入

「エコキャップ大作戦」開始

「省エネ・環境パトロール活動」開始

平成 20 年 8 月　「ふれあいあいさつ運動」開始

平成 20 年 9 月　顧問を設置

平成 21 年 3 月　同窓会発足

平成 21 年 6 月　エコキャップ回収ボックスの学内設置

平成 22 年 1 月　名古屋市と「なごや防犯ボランティア団体協定」締結

平成 22 年 4 月　「あしたの丘ボランティア」発足

平成 25 年 4 月　「顧問」から「学生アドバイザー」に改称

「渉外部」設置

平成 26 年 9 月　10 周年式典

平成 27 年 4 月　「渉外部」廃止

平成 30 年 4 月　「こども部門」発足

令和 4 年 4 年　「あしたの丘ボランティア部門」・「盲導犬ボランティア部門」、「福祉ボランティア部門」に統合

現在に至る

設立の経緯

名城大学ボランティア協議会は、平成 16 年 7 月に設立されました。きっかけは、設立の 2 年前、本会の初代会長である加藤隆吾氏が学内のたばこの吸い殻を拾い出したことでした。ひとり、またひとりとその行為に賛同する学生・教職員が集まり、月一回の清掃活動が学内で定着していきました。その活動は「クリーンアップ大作戦」と命名され、平成 16 年 4 月のクリーンアップ大作戦には 100 名を超える学生・教職員が参加するに至りました。その後、ボランティアに対する意識が大学全体に根付きつつあることから、さらにその活動の幅を広げ、ボランティア活動に組織的に取り組もうという機運が高まり、本会の設立となりました。

現在では、登録書数は 200 名を超え、その活動の範囲も環境・防犯・災害復興・福祉など多岐にわたり、名古屋市天白区を中心に積極的なボランティア活動を展開、地域社会に貢献できる地域密着型の学生ボランティア団体を目指して日々活動しています。

目的

名城大学に在籍し、ボランティア活動に関心のある学生がボランティア活動を実践し、社会の一員として地域社会に貢献するとともに、様々な経験を通して学生自身の成長に寄与する。

理念

・ボランティア活動への理解
・ボランティア活動の実践
・ボランティア活動による地域社会貢献

ボラ協に入ってみよう

・会員について

名城大学に在籍し、ボランティアに興味のある学生ならだれでも本会会員になることができます。入会後は、電子メールを通してボランティア活動の情報を受け取ることができることができるようになります。そこから、自分にあったボランティア活動を選び、いつでも気軽にボランティア活動に参加することができます。

・運営スタッフについて

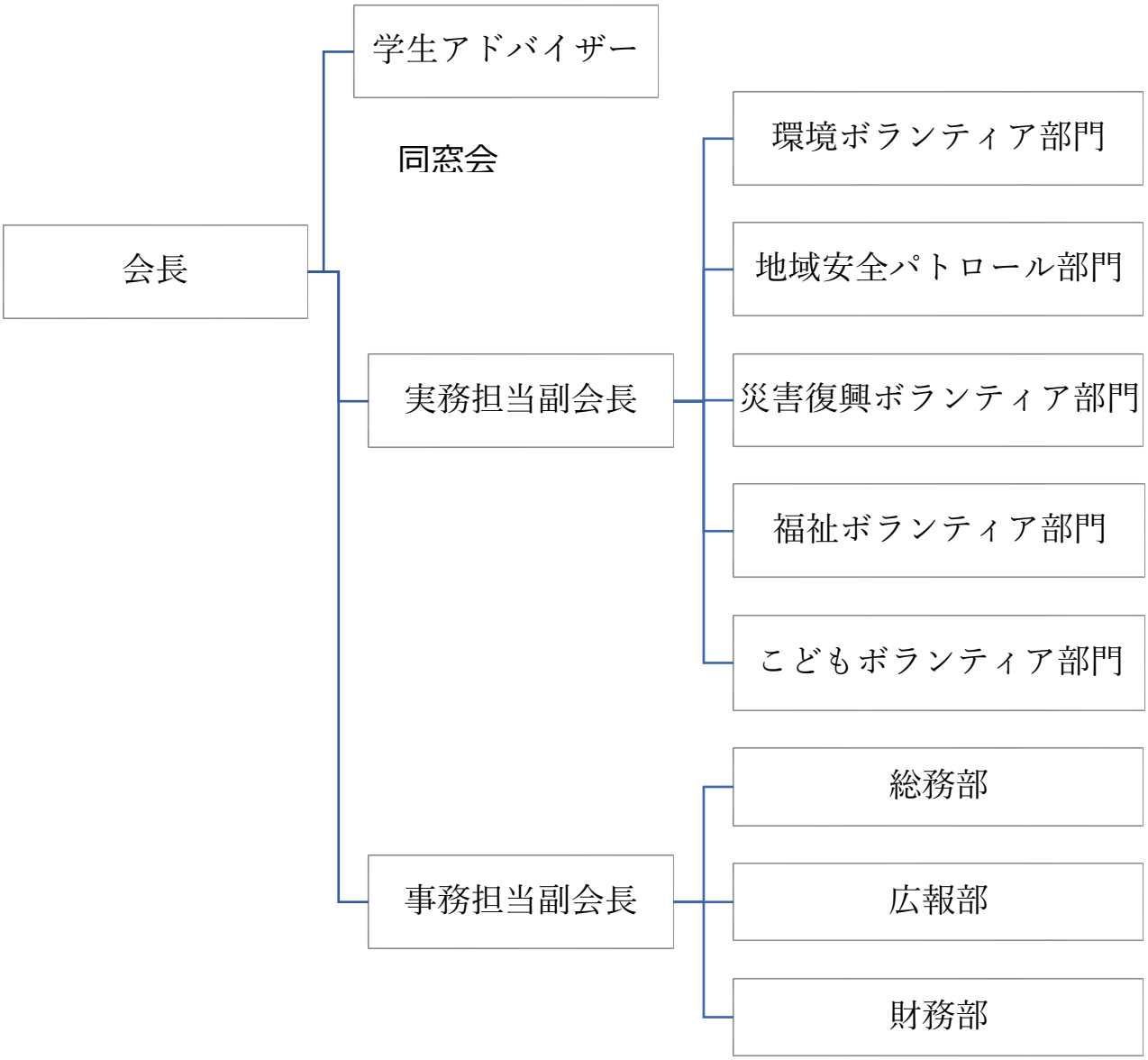
ある程度の経験を積んだ会員がボランティア活動の企画・立案・運営を行います。いわば、ボランティア活動の「コーディネーター」というべき存在です。

歴代会長

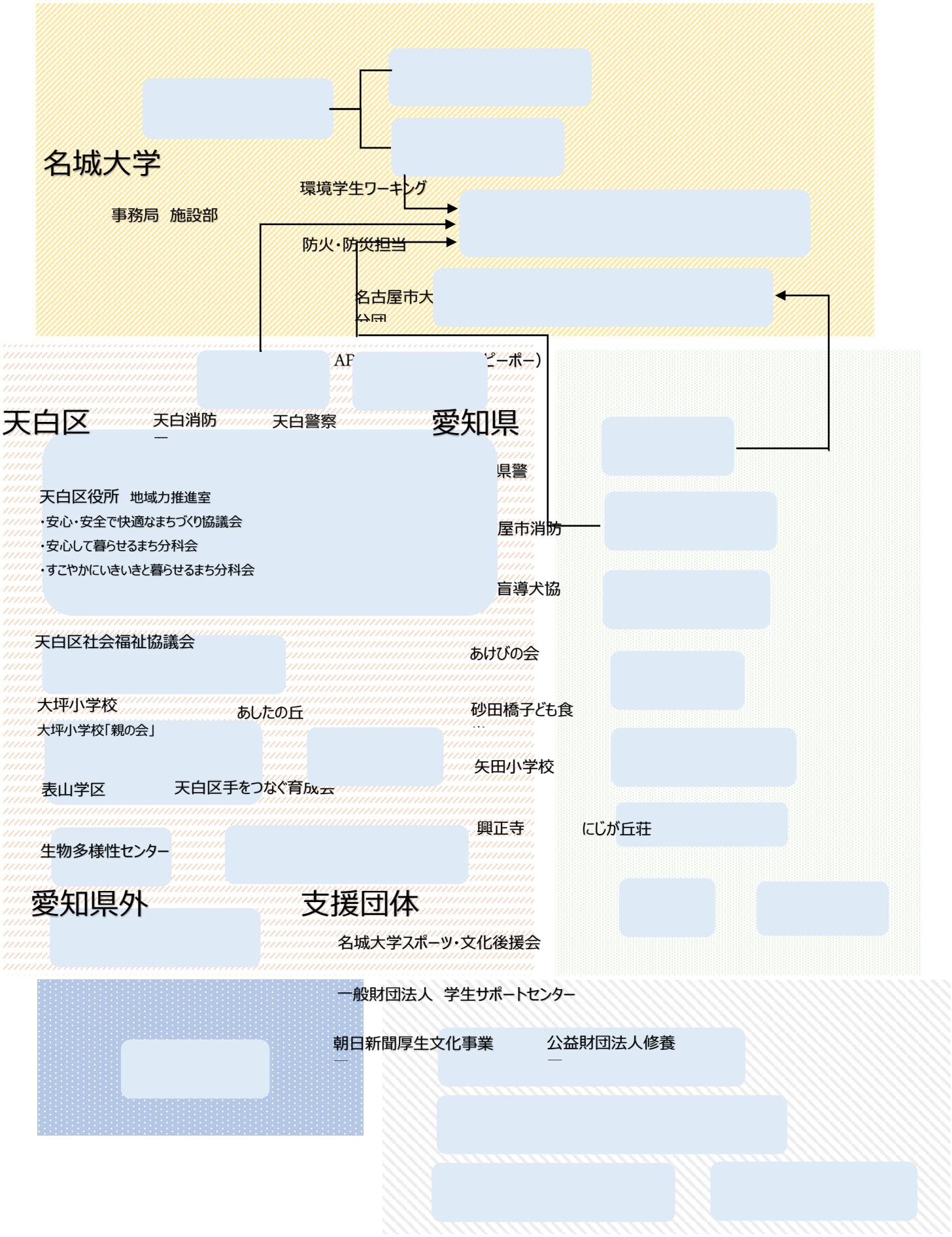
平成 16 年度		初代	加 藤　隆 吾　（理工学部 4 年）
平成 17 年度		初代	加 藤　隆 吾　（大学院理工学研究科）
平成 18 年度	4 月～10 月	初代	加 藤　隆 吾　（大学院理工学研究科）
	10 月～3 月	2 代目	小 島　愛 子　（経営学部 3 年）
平成 19 年度		3 代目	前 田　裕 也　（法学部 3 年）
平成 20 年度		4 代目	片　岡　　豊　（法学部 3 年）
平成 21 年度		5 代目	鈴 木　将 也　（理工学部 3 年）
平成 22 年度		6 代目	森 下　雄 太　（理工学部 3 年）
平成 23 年度		7 代目	日江井　康輔　（経営学部 3 年）
平成 24 年度		8 代目	久 米　悠 介　（法学部 3 年）

平成 25 年度	9 代目	濱 口　静 加　（農学部 3 年）
平成 26 年度	10 代目	岩 田　大 勢　（理工学部 3 年）
平成 27 年度	11 代目	佐 藤　和 也　（経済学部 3 年）
平成 28 年度	12 代目	和佐田　一貫　（法学部 3 年）
平成 29 年度	13 代目	岡 田　悠 希　（法学部 3 年）
平成 30 年度	14 代目	井 本　有 哉　（法学部 3 年）
令和元年度	15 代目	井 戸　すずか　（経営学部 3 年）
令和 2 年度	16 代目	石 田　恋 宝　（経済学部 3 年）
令和 3 年度	17 代目	渡邉　明日香　（法学部 3 年）
令和 4 年度	18 代目	小 山　拓 哉　（法学部 3 年）

名城大学ボランティア協議会



本会と関わりのある団体



副会長挨拶

実務担当副会長

法学部　法学科　2 年　高島康平

今年度で名城大学ボランティア協議会(以下本会)が 19 年目を迎えることができました。今年度も幅広く活動ができたことは、大学関係者の方々や地域の方々のご支援があってのことです。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響が収まりつつあり、昨年と比べ、多くの活動に取り組むことができました。また一般会員も多く加入してくださり、本会の活動に継続して参加してくれる学生や役員に志願する学生が増えたことは喜ばしいことです。

ボランティア活動で大事なことは、「これをやりたい」という積極性だと考えています。一人が誠実に活動に取り組むことで、熱意が参加してくれている学生に広がり、全体としてより良いものになると実感しているからです。本会はこのような積極性を持った学生を今後も大事にしたいと思っております。同時にボランティア活動を楽しむ精神も忘れず、取り組んでいきたいとも思っております。自由に活動できる大学生であるからこそ、失敗を恐れず挑戦していきます。

最後になりますが、このような状況下で活動を行うことができたのは、本会役員や会員、大学関係者、同窓会といった多くの支えのおかげです。今後も本会の発展のためご理解、ご協力をよろしくお願い致しま

事務担当副会長

法学部　法学科　2 年　池之上夕菜

今年度で本会は 19 年目を迎えることができました。本会を支えて下さる様々な方のおかげで長く続けてこられた結果だと思います。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

今年度は「変化の年」でした。活動内容の連絡手段を LINE オープンチャットへと変更、ホワイトボードの使用方法変更、役員内でのルールの明確化、定期的な役員会議の実施等、試行錯誤ではありますが、より良いボランティア協議会を作るべく意見を出し合い、力を合わせてこられたと感じます。

事務部門としても活動報告会の開催や活動費精算、SNS 発信等、連携して行う事が出来たと感じています。来年度は今年度よりも感染症が収束し、活動を活発に行う事ができるように願っています。

最後になりますが、活動を行なうことができたのは、本会役員や会員、教職員、同窓会の方々の支えのおかげです。厚く御礼申し上げます。今後も本会の発展のため、変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

代表挨拶

環境ボランティア部門代表
理工学部　電気電子工学科３年　高橋太一

環境ボランティア部門では、主にクリーンアップ大作戦を月に２回とエコキャップ大作戦を月に１回程度行っています。また、常時外活動として打ち水大作戦、大規模クリーンアップ、キャンドルナイトを行いました。今年は新型コロナウイルスの影響を加味しながらできる活動を積極的に行いました。これによって、多くの学生が活動に参加してくれました。

クリーンアップ大作戦では、大学の駐輪場、塩釜口公園、塩釜口西公園などの天白キャンパス周辺での活動を行いました。ゴミが多く捨てられている場所として、駐輪場内のフェンス付近、公園のベンチや低木の下、道路の側溝などのあまり人目につかないようなところが多く、ごみを回収し移動する前に見落としがないかを注意深くチェックしながら活動を行いました。活動するたびに、毎回同じような場所にゴミ置きや投げ捨て等が見受けられるため、これらを防ぐ対策を講じていくことが今後の課題だと感じました。また、たくさんの方に参加していただくために、前日と当日の２回天白キャンパス内で放送を行うことと、前日天白キャンパス内に活動を知ってもらうための旗を立てることを行いました。
この活動を通して、学生が環境問題やごみの分別に対して意識を高めるきっかけになれば大変うれしく思います。

エコキャップ大作戦では、劣化してきたエコキャップ回収、BOX の交換や設置、環境部門のスタッフに回収場所の割り振りを行いました。参加してくれた皆さんのおかげで、たくさんのエコキャップを回収し、発展途上国のポリワクチンの接種に生かされます。

最後に、環境ボランティア部門の活動に参加していただいた教職員や学生、日ごろからご理解いただいている地域の方々にこの場をお借りして、心から感謝いたします。

今後とも変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

地域安全パトロール部門代表
法学部　法学科２年　高島康平

地域安全パトロール部門ではふれあいあいさつ運動と防犯パトロールの２つの活動を中心に、警察や行政と協力しながら活動を行っています。新型コロナウイルスの影響を恐れることなく、昨年よりも多くの活動を行うことができました。

ふれあいあいさつ運動では、大学近くにある大坪小学校で下校する小学生の見守りと挨拶を行っています。小学校の下校時間に合わせて活動を行うので、14 時～15 時の時間帯に活動を行うことが大半ですが、多くの学生がこの活動に参加してくれました。回数を重ねるごとに、小学生との交流も増えていき、挨拶をする楽しさを感じることができました。

防犯パトロールでは、大学近くのエリアを歩きながら、公園の遊具点検や道路標識の点検等を行います。今年度は公園の危険箇所の点検に加え、公園内のごみ拾いも行いました。コンビニのごみやたばこの吸い殻など多くのごみが捨てられており、少しでもきれいな公園にしようと取り組みました。また大学付近で自転車盗難の問題もあったため、自転車の鍵の確認や駐輪場の整備なども行いました。来年度は、車通りの多い夕方にも活動を行いたいと考えています。

今年度は天白警察署長様より「交通安全サポーター」に任命させていただきました。名古屋市最初の「交通安全サポーター」として、今後も交通安全の呼びかけに力を入れていきたいです。また天白警察署の方と連携して、天白区の野並小学校で「体験型防犯教室」も行いました。学生が不審者役となり、小学生に実際に動いて理解してもらうことを主とした活動です。学生は小学生と楽しんで防犯を学ぶことができ、充実した活動になりました。

最後になりますが、当部門での活動を日頃よりご理解、ご協力をしていただいている天白区役所や天白警察署の方々、大坪小学校の先生方や保護者の皆様、地域住民の方々に心より感謝申し上げます。今後も変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

災害復興ボランティア部門代表
理工学部　電気電子工学科３年　北川大慈

災害復興ボランティア部門の活動は主に、「災害の知識を学ぶこと」「被災地との交流を行うこと」そして、「震災復興に携わること」の 3 点を意識して企画運営を行いました。災害の知識を学ぶため、先ずは避難所体験を行いました。災害に詳しい方によるお話や非常食の試食体験、防災グッズの確認や大学の備蓄の視察を行いました。8 月には東日本大震災の被災地である気仙沼大島で被災地との交流を兼ねて、継続している観光用のベンチの作成や小学校での草刈りボランティアを行いました。そして、10 月には 9 月下旬に日本を襲った台風 15 号の被災地である静岡県磐田市や静岡市の清水区へ赴き、現地の視察に物資の寄付を行いました。さらには 1 日かけて土砂の撤去作業のボランティアを行わせていただきました。

災害復興ボランティアと名乗るにふさわしい活動を、この一年で遂げられたと自負しております。私が代表として企画したことは、「とにかく動くこと」です。やらない理由はいくらでも並べることができます。感染症が、時間が、とにかく最近の人はそんな理由を並べて正当化します。ですが、最も大切なのは失敗しようとも動くことです。

この成功には、現地でボランティアを行う同士の方、支援して下さった方、そして企画の段階から支えてくださった学務センターの職員さん方の力あってのことです。本当に感謝の限りです。

しかし、まだ今後も震災は起こります。被災地がこの愛知になる日も近いのが現実です。私は例え自分が被災地にいても、それ以上に被災地にいるからこそ即座に大規模なボランティアを行える体制や準備が出来るようになりたいと考えています。私は今年の台風 15 号のボランティアで災害復興の重要性と難しさに気付かされました。被害が確認された当日に私個人で愛知県の被災地へ視察に行きました。そしてその日のうちに、ボランティアの準備や行程などを決めて企画書を作り、打ち合わせを始めました。実際に現地へ視察に行ったのは被害から一週間後、震災復興ボランティアを行ったのは被害から二週間後でした。即座に動いても、これだけ時間がかかってしまうこれが私にとって衝撃でした。そして、二週間たっても被災地の状況は深刻でした。マスメディアの報道がなくなってもボランティアは必要です。震災復興がいかに大切か現地に行って思い知らされました。

福祉ボランティア部門代表
人間学部　人間学科２年　松井暖実

福祉部門は、昨年度まで活動していた盲導犬ボランティア部門、あしたの丘ボランティア部門を一体化させ、今年度から新たな名称で活動を行ってきました。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受け、活動に制限がかかった時期もありましたが、盲導犬サポーター講習会や手をつなぐ育成会等、前年度に比べ多くの活動に参加することができました。また、今年度からは初の試みとして、重度訪問介護従業者養成研修や手話教室への活動も行いました。

盲導犬サポーター講習会では、ガイドヘルパーの役割や介助の留意点、視覚障がい者への接し方について学び、実際に、中部盲導犬協会やあけびの会の方々と一緒に移動介助を体験しました。アイマスクをつけ歩く道は、風の音がいつもより大きく聞こえ、周囲にあるものすべてが自分に迫ってくるような恐怖がありました。目が見えない感覚を体験したことで、不安や恐怖を与えない介助をするためにはどのようなガイド、声掛けが必要かを考えることができました。

重度訪問介護従業者養成研修では、脳性まひなどの身体に障害のある方の支援資格を取得するため、講義・実習に参加しました。医療的ケアを必要とされる重度訪問介護利用者さんの障害や支援に関する講義だけでなく、実際にペアを組んで、車いすを押したり、着替えを行ったりしました。車いす実習では、普段何気なく歩いていた道路にある数センチの段差や傾斜が、車いすの方にとって大きなバリアになっていることに気がつくことができました。

手話教室では、手話をコミュニケーションツールとされている方々と一緒に指文字や手話について学びました。ジェスチャーゲームやグループ活動などがあり、手話が全くわからなかった私でも楽しみながら手話を学ぶことができました。

最後になりますが、福祉部門の活動に関わってくださった皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

こどもボランティア部門代表
人間学部　人間学科２年　山下茉綺聖

子どもボランティア部門では、今年度は「矢田川あそび２０２２」「つどいの場マルシェ」「ワクワク楽しみ隊」「にじが丘荘」に参加しました。

「矢田川あそび２０２２」では、子どもたちがガサガサ調査や水質調査、ボート遊びなどを安全・安心に体験するため、準備や見守りの協力させていただきました。

「つどいの場マルシェ」では、表山コミュニティセンターで開催されるイベントのお手伝いをする活動です。盲導犬協会のクッキーの販売やイベント準備のお手伝いをさせていただきました。

「ワクワク楽しみ隊」では、名古屋市内のトワイライト・スクールで講座を開いています。公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会の方の相談しながら、一から講座を作り、実施しています。学生の特技を生かした講座を開き、今年度は工作の講座を行っています。

「にじが丘荘」では、学習支援を行っています。下校後や長期休暇中に施設の子どもたちの学習をサポートしたり、一緒に遊んだりしています。

子どもが好きで子ども部門代表を務めさせていただきましたが、活動を通じて様々な学びや経験をすることができました。活動を通して、子どもたちだけでなく、多くの人が笑顔で喜んでいる姿を見て、幸せな気持ちになりました。また、周りの人たちの教育や企画に対する熱い思いを間近に見て、私もより真剣にボランティア活動に力を入れていきたいと思いました。これからも多くの活動を企画・運営・募集をかけたいと思います。

最後になりましたが、当部門での活動を日頃よりご理解、ご協力いただいている教育関係者の皆様、地域住民の皆様、職員・役員の方々に心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご支援、ご協力よろしくお願いします。

総務部長

法学部　法学科２年　池之上夕菜

総務部では、ボランティア協議会の総括を行う部門として、活動報告会のスライド作成、司会進行、名刺の作成、活動報告書の活動を行いました。事務の立場から役員・会員がどのようにすれば、活動を行いやすくなるか工夫して１年間活動を行ってきました。

例年は、各部門役員が総務部に活動内容を報告する際、活動拠点であるタワー４階の本会の部室のパソコンに入力しに来ていたと聞きました。しかし、キャンパ間移動が難しい役員、パソコンの作動不具合、活動の簡潔化を理由にアプリのノート機能活用を提案・実行に移すことができました。活動場所が大学から離れていてもその日のうちに報告を行うことで、振り返りやすくなり、活動を行った実感を得られたとの声がありました。

活動報告会は毎月のボランティア協議会の活動を振り返り、共有できる大切な活動です。新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、昨年度より活発な活動を本会では行ってきました。活動が増加するにつれスライドの作成枚数も増え、やりがいを感じることができました。

総務部の活動は各部門の活動がなければ成り立ちません。活動を企画・運営している実務部門の役員、外部への活動の発信や活動費清算で支えている広報部・財務部の役員、活動を理解し、参加してくださる会員の皆様に感謝しております。また、いつも本会の活動を親身に応援してくださる教職員、並びにお世話になっている施設や団体関係者の方々にお礼申し上げます。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

広報部長
人間学部　人間学科２年　山下茉綺聖

広報部では、本会の活動を知ってもらうため、Instagram の更新、Twitter の更新、Facebook の更新、学内にあるホワイトボードの更新、活動予定カレンダーの作成を行っています。

主に Instagram を活用し、活動前の PR や活動中の様子、活動後報告などを投稿しています。また、タワー2 階・4 階のホワイトボードの更新と活動予定カレンダーの作成を行っています。Instagram の投稿と他のアプリを連携させることによって更新頻度を上げるとともに、多くの人に情報が届くような工夫をしました。

新体制となり前半は投稿頻度が少なく、ボランティア協議会の活動を発信していくことができませんでした。Instagram の DM では、入会方法・活動内容など質問やボランティア活動の勧誘をいただいたことで、情報発信が足りないこと・ボラ協を必要にしてくれていることに気づかされました。徐々に投稿頻度を上げ、わかりやすく見やすい投稿を目指して頑張りました。広報の活動のために、活動内容や活動写真を提供し、また、お褒めの言葉や喝を入れてくださった役員や先輩、職員の皆様には、本当に感謝しています。本当にありがとうございました。皆様のおかげでできたことです。

広報の活動を通して、ボラ協を「周知」「認知」の大切さを知りました。知ってもらうことがスタートであり、知ってもらわなければ興味関心を持ってもらうこともできません。広報は窓口のようなものだと感じました。認知をどれだけさせられるかということがかなり重要になるため、投稿頻度を上げるとともに、ピン止め・ハイライト・タグ付けすることによって、目に留まるように心がけました。今年度できなかったことを、気持ちを改め来年度、工夫をしながら発信しボランティア協議会を盛り上げていきたいです。

そして、SNS をご覧いただいき私たちボランティア協議会を温かく見守ってくださった皆様に感謝したいと思います。ありがとうございます。

財務部長

経済学研究科　経済学専攻科１年　石田恋宝

今年度は多くの活動が行われ、その分、交通費等の精算も行うことができ、コロナ以前の財務部に戻ってきたように感じます。また、大学祭で出店したことで収入を得られたことは良い事だと思います。

今年度も、銀行での手数料を無くすため、立て替えを徹底的に行ったことで今年度の手数料も０円となりました。また、不必要な経費は無くすために、購入する前に使用可能な物が無いかをクラブハウスなどから確認したことで雑費は抑えられたと思います。大学祭では３万円ほど利益を出すことができ、交通費等の充足することができたのではないかと思います。

交通費の支払いに関しては、活動があった際に役員へ聞き取りを行い、活動に参加しやすいように促すことができました。私が活動に参加した際にも交通費が必要な人に積極的に呼びかけ、交通費の面で活動への参加を断念することが無いように財務部として動いてきました。

財務部の仕事は１つ１つ小さなことではありますが、活動を行なっていく上では重要な役割だと思います。現状では通帳が複数あり、複雑になってしまいますが、それを乗り越えるのも財務部の仕事だと思っています。ただ、簡略化できるところは直し、誰にでも扱いやすくできるように来年度はサポートしていきます。

最後になりますが、ボランティア協議会、財務部への支援をしてくださった皆様に感謝申し上げます。来年度も応援のほどよろしくお願いいたします。